

社会生活指標からみたアジア諸国の生活水準

鈴木 恒 一

Living Conditions of Asian Countries

Viewing from Social Indicators

Koichi Suzuki

The World Bank classifies 209 countries and economies by GNP per capita into four income groups: Low-income, Lower-middle-income, Upper-middle-income and High-income. By this classification, many Asian countries—Bangladesh, China, India, Lao PDR, Pakistan, Sri Lanka and Viet Nam—belong to the Low-income group.

However, we are unable to judge living conditions by GNP per capita alone. Thus, this paper makes an attempt at judging the living conditions of 14 Asian countries by comparing nine kinds of social indicators.

My tentative conclusion on the living conditions of 14 Asian countries is the following:

Low living condition—Bangladesh, India, Lao PDR, Pakistan

Middle living condition—China, Indonesia, Malaysia, Philippines, Sri Lanka, Thailand,
Viet Nam

High living condition—Japan, Korea, Rep., Singapore

はじめに

世界銀行 (The World Bank) 発行の “*The World Bank Atlas, 1996*” は、世界の209か国 (一部、地域を含む、以下同様) を1994年の1人当たり GNP (米ドル換算) の多寡によって、低所得国、下位中所得国、上位中所得国、高所得国の4つのグループに分類している。われわれはこれによって、所得水準・生活水準からみた対象国の位置づけを一応知ることができる。しかしこうした単一の指標によって所得水準・生活水準を測ることは、若干の無理ないしは限界があることもまた否定できない。

そこで筆者は、アジア諸国を対象に、各種社会生活指標 (social indicators) を用いて、それ

それぞれの国の実質的な所得水準・生活水準を観察し、その結果が世界銀行の分類とどの程度整合しているか、あるいはどの程度ギャップを持っているかを調べてみた。ただこうした社会生活指標には、データの利用可能性という点でいろいろ制約がある。したがって以下の分析においても、統計処理上の厳密性を犠牲にしなければならないこともあり、したがってその結論についても若干の問題点を含むことはやむをえない。ただ筆者としては、こうした作業を通じて、各国の経済実体・生活実体についての複眼的な見方を提示したいと考える。

I. 予備的作業

“The World Bank Atlas, 1996” は、1994年の所得水準（米ドルの換算の1人当り GNP）によって対象国209か国を次のように分類している¹⁾

低所得国	1人当り GNP	725ドル以下	64か国
下位中所得国	〃	726～2,895ドル	66か国
上位中所得国	〃	2,896～8,955ドル	35か国
高所得国	〃	8,956ドル以上	44か国
			計209か国

ただし“The World Bank Atlas, 1996”に GNP の計数が掲記されているのは158か国にすぎないので、この作業も158か国が対象となる²⁾。ただこのなかでマーシャル諸島 (Marshall Islands) は、GNP の計数が得られるものの、この分析に必要な社会生活指標がほとんど得られないので、これを対象から外して157か国のデータによって分析することにした。また上記の定義から明らかかなように、対象国を4分類したといっても、各グループの所得格差はかなり大きい。そこでこの作業では、各国の経済実体・生活実体をもう少し肌理細かく観察するため、上の各グループをそれぞれⅠ、Ⅱ、Ⅲの3つの小グループに分けることにした。その分け方は、とくに一定の基準を設けることなく、所得の大小によって、各小グループに属する国の数が均等になるように機械的に配分した。ただ配分にあたり端数が出た場合、端数が1国の時はⅡグループを、端数が2国の時はⅠとⅡのグループの数を増やして調整した。こうした区分作業の結果と各小グループ毎の1人当り GNP の最低・最高・平均値を示したのが (表1) である。

次に以下の社会生活指標について、各小グループ毎の平均値を算出する。今日、国際機関の統計書に採用されている社会生活指標はかなり多いが、ここでは生活・教育・健康の水準を示すと思われる9指標を取り上げることにする (ただし指標の性質から考えると取り上げたいと思われるものでも、計数のない国があまり多いという理由で採用しなかったものもある。例えば医師1人当り人口など。) しかしこうした指標は、ここで対象とした国すべてで得られるわけではない。したがって小グループの平均値といっても、実際には計数が得られる国の平均値である。また計数の年次については以下に示したとおりであるが、一部それより若干古い計数を含んでいるものもある。なお、当該年次 (ないしそれに近い年次) の計数が得られない場合でも、過去の計数などからある程度推測できるときは、推測した概数を入れて平均値を算出した。

ここで採用したデータおよびその原資料等は以下の通りである。

1) 1人当りエネルギー消費量 (1989～94年のいずれかの年, 単位・石油換算 kg)

(資料) The World Bank, “Social Indicators of Development, 1996”

2) 千人当り印刷用紙 (ただし新聞紙を除く) ・筆記用紙消費量 (1993年, 単位・kg)

(資料) UNESCO, "Statistical Yearbook, 1995"

3) 千人当り新聞(日刊紙)発行部数(1989~94年のいずれかの年, 単位・部)

(資料) 1) に同じ

4) 千人当りテレビ保有台数(1993年, 単位・台)

(資料) 2) に同じ

なお所得別グループの平均値を算出するに当っては、テレビ放送が行われていない国も保有台数0として計算した。

5) 千人当りラジオ保有台数(1993年, 単位・台)

(資料) 2) に同じ

6) 識字率(15歳以上)(1989~94年のいずれかの年, 単位・%)

(資料) 1) に同じ

なお、原資料は非識字率の計数を掲載しているが、ここではこれを識字率に直した。また非識字率が5%未満の国については、その旨が表示されているだけで、実際の率は記載されていないので、各小グループの平均値を算出するに当たっては、便宜上これらの国の識字率をすべて97%とした。

7) 中等教育(中学校・高等学校)就学率(1989~94年のいずれかの年, 単位・%)

(資料) 1) に同じ

8) 千人当り乳児(1歳未満)生存数(1989~94年のいずれかの年, 単位・人)

(資料) 1) に同じ

なお、原資料は千人当り死亡数を掲載しているが、ここではこれを生存数に直した。

9) 千人当り病院ベッド数(1989~94年のいずれかの年, 単位・人)

(資料) 1) に同じ

なお、原資料は1ベッド当り人口を掲載しているが、ここではこれを人口千人当りベッド数に直した。

以上の9指標について、各小グループの単純平均を計算した。それによって、各所得グループ毎に生活・教育・健康についての実態的な平均像をみたいと考えたからである。その結果は(表2)に示されている。当然のことではあるが、これらの指標の高低は所得水準の多寡とかなり密接な関係を持っている。ただ下位中所得国・Ⅲグループの指標が概して高く、エネルギー消費量・テレビ保有台数・識字率・乳児生存率・病院ベッド数はいずれも、上位中所得国・Ⅰグループの指標を上回っている(とくに病院ベッド数は、高所得国の指標をも上回っている)。これは、ロシア・ポーランドなど旧社会主義圏の国が含まれているためと考えられる。

Ⅱ. アジア諸国の社会生活指標によるグルーピング

このような予備的作業を行ったうえで、次にアジア諸国についての同じ社会生活指標をみることにする。ここで取り上げるアジアの国は、バングラデシュ、中国、インド、インドネシア、日本、韓国、ラオス、マレーシア、パキスタン、フィリピン、シンガポール、スリランカ、タイ、ベトナムの14か国である。まずこれら14か国が、前述の1人当りGNP基準でどのグループに分類されているか、またその1人当りGNP(1994年)はいくらかについてみておくことにしよう。

近年、アジア諸国はその急速な経済発展振りが注目を集めているが、このように14か国を1人当りGNPの順に配列してみると、改めてアジアの貧しさとその多様性を見せつけられる。まず

14か国の半数が低所得国に分類される。しかしその一方で、日本は別としても、シンガポールは既に高所得国に分類されており、韓国も高所得国入り直前の地位にある。このように、同じアジア諸国のなかでもその差は極めて大きく、低所得国・Iグループにあるベトナム・バングラデシュの所得水準は、シンガポールの100分の1以下である。また同じ下位中所得国に属するといっても、フィリピンとタイの間には2.3倍という大きな格差があることが注目される。

低所得国 I	ベトナム	1人当り GNP	190ドル
	バングラデシュ	〃	230 〃
〃 II	インド	〃	310 〃
	ラオス	〃	320 〃
	パキスタン	〃	440 〃
〃 III	中国	〃	530 〃
	スリランカ	〃	640 〃
下位中所得国 I	インドネシア	〃	880 〃
	フィリピン	〃	960 〃
〃 III	タイ	〃	2,210 〃
上位中所得国 I	マレーシア	〃	3,520 〃
〃 III	韓国	〃	8,220 〃
高所得国 II	シンガポール	〃	23,360 〃
〃 III	日本	〃	34,630 〃

それでは、これら14か国の社会生活指標はどうなっているであろうか。これらの国の9指標は(表3)に示されている。ここで示されたアジア諸国の社会生活指標を、世界規模で所得別にみた(表2)の平均値と比較すれば、1人当りGNPの比較から生まれたイメージとはかなり異なったアジア諸国の生活実態が浮かびあがってくるのであろう。ただ、(表3)を一見して明らかかなように社会生活指標のばらつきはかなり大きく、所得水準の高低との相関も必ずしも高いとは言い難い。同じアジア諸国といっても、それぞれの国情には大きな差があるから、こうしたばらつきも決して不思議なことではない。そこでまず(表3)のなかで目につく点を若干指摘しておく。

- イ. ベトナムは所得水準が14か国中最低であるにもかかわらず、社会生活指標はかなり高いものが多い。とくに識字率は高所得国並みの高さがある。
- ロ. ラオスは低所得国のIIグループに分類されているが、その社会生活指標は概して低く、低所得国・IIグループの平均より高いのは識字率のみである。
- ハ. バングラデシュ、パキスタンの社会生活指標も低いものが目につくが、とくに識字率・中等教育就学率が低く、教育面での立ち遅れを窺わせる。
- ニ. 中国の社会生活指標は、病院ベッド数を除けばいずれも、同じ低所得国・IIIグループの平均より高い。

ホ. スリランカの社会生活指標は低所得国のなかでは概して高く、むしろ中所得国の水準並みのものが多い。

ヘ. 下位中所得国のインドネシア、フィリピンでは、病院ベッド数が低所得国・Iグループ並みの低水準であるが、フィリピンの識字率は高い。

ト. タイの指標も、同じ下位中所得国・IIIグループの平均と比べると、概して低いものが多く、とくにエネルギー消費量・新聞発行部数・テレビ保有台数・ラジオ保有台数の低さが目立つ。教育面では中等教育就学率が低い反面、識字率は高い。

チ. 上位中所得国に属するマレーシア、韓国の指標は、同じグループの平均と比較して病院ベッド数で見劣りするものの、概して高いものが多い。とくに韓国の識字率・中等教育就学率は高所得国とほとんど肩を並べており、ラジオの保有台数は高所得国を上回る高さである。

リ. アジア14か国のなかで、日本とともに高所得国に属するシンガポールは、その所得水準に相応しく高い社会生活指標を並べているが、病院ベッド数のみは同じ高所得国・IIグループの平均の半分以下の低さである。

このようにそれぞれの国の特徴を抽出してみると、アジア諸国にはほぼ共通していることは、所得水準との相対的な関係からみて、識字率が高い反面、病院ベッド数では見劣りがするという点であろう。その背後にどういう事情があるのか、ここでその要因を印象的に速断することは避けなければならないが、近年におけるアジア経済の急速な発展と何らかの関わりがあるのではないかと、興味ある点である。識字率が高いという点は、1993年の世界銀行の報告がアジア経済発展の要因として人的資源を重視していることと符号すると言えよう³⁾。反面病院ベッド数が少ない点は、アジア諸国における生活面でのインフラ整備の立ち遅れを示しているのかもしれない。

ただこのように、個々の社会生活指標の国際比較をしてみても、所得水準と生活水準の関係を総合的に判断することは難しい。そうした総合判断するためには、9個の社会生活指標を統計的に処理した総合指標が必要になる。ところが(表2)および(表3)から明らかのように、9個の指標はそれぞれの性格によって、指数の分散に大きな差がある。そこでここでは、まず(表2)の指数を偏差値に直し、各所得グループ毎に9個の偏差値の単純平均を算出した。さらに(表3)については、(表2)から計算された標準偏差をそのまま用いて、(表2)と同様にアジア14か国について偏差値の平均を算出した。その結果は(表4)に示されている。そしてこの偏差値の平均を「総合社会生活指数」と呼ぶことにしよう。

さてアジア14か国の総合社会生活指数を、世界規模(157か国)のそれと比較してみよう。157か国の所得グループ別の指数は、旧社会主義圏に属する国を多く含む下位中所得国・IIIグループを別にすれば、所得水準の高さの順序と並んでいる。しかしアジア14か国の指数の高低はそうではない。そこでこれらのアジア諸国それぞれの総合社会生活指数を世界規模のそれと比較した場合、それぞれの国の指数がどのグループに近いかをみると、まず第一にベトナム(低所得国・I)および中国(低所得国・III)はむしろ下位中所得国・Iグループに近いといえる。またスリランカ(低所得国・III)は下位中所得国・Iグループと同水準である。逆に低所得国・IIのパキスタンは、同じ低所得国でもIグループに下がり、下位中所得国・Iのインドネシアはむしろ低所得国・IIIグループに近い。また同じ下位中所得国・IIIに属するタイは、同じ下位中所得国でもIグループに近い。さらに上位中所得国の韓国の指数は、高所得国・Iグループと同じである。

このようにみえてくると、アジア14か国の生活水準の高低によるグルーピングは、1人当たりGNPによる区分とはいささか異なってくる。この14か国を、総合社会生活指数によってあえて

大胆にグループイングすれば、次のようになる。

生活水準・低位……バングラデシュ・インド・ラオス・パキスタン

同 中位……ベトナム・中国・スリランカ・インドネシア・フィリピン・タイ・マレーシア

同 高位……韓国・シンガポール・日本

以上がこの作業の一応の結論である。

Ⅲ. その他の関連指標による検討

以上の作業に関連して、アジア諸国の生活水準を考えるうえで、参考となると思われる若干のデータを検討してみたい。

先に述べたように、世界銀行の所得別のグループ区分は、それぞれの国の GNP を為替レートによって米ドルに換算した計数によっている。しかし為替レートがそのまま、その国の通貨の国内購買力を示しているわけではない。前者はその国通貨の対外価値を示しており、それは基本的にはその国経済の対外競争力によって決まると考えてよいであろう。しかしそれぞれの国の国民生活にとっては、自国通貨の対内価値、つまり国内における通貨の購買力こそが重要である。少なくとも、それぞれの国の当面の生活水準は、その時々自国通貨の国内購買力によって左右される。

幸い“*The World Bank Atlas*”には購買力平価ベースの1人当り GNP が併記されているので、アジア14か国の1人当り GNP について、為替レート・ベースの計数と購買力ベースの計数を比較した(表5)。この表では、さらに購買力平価ベース/為替レート・ベースの比率を算出している。表5で明らかなように、この比率はおおむね低所得国が大きく、4前後の国が多いのに対し、高所得国は小さく、シンガポール・日本とも1を割っており、とくに日本は0.6という極端に小さい値である。したがって購買力平価ベースでみれば、14か国の所得格差は、為替レート・ベースでみたときよりかなり縮小することになる。当面の生活水準という点でいえば、購買力平価ベースの計数のほうが、より実態に近いということができよう。

もうひとつは、国連開発計画(United Nations Development Programme)の「人間開発指数」(Human Development Index, HDI)である。これは国連が、「人間開発」(human development)というのは、個々人の選択の幅を拡大することを目指すべきものと考え、その程度を示す各国の指標として、実質購買力・教育・健康の指標を合成することによって作成したものである⁴⁾。前述のように世界銀行は、各国の貧富の程度を1人当り GNP によって測っているが、この HDI はより広範な概念によって「人間の進歩」(human progress)の程度を捉えようとしているわけである。この指数は、同計画の1990年報によって初めて公表されたが、(表6)は最新(1995年報)に掲載されている1992年のアジア14か国についての指数を示したものである。この年報は、それぞれの国を HDI (最高1, 最低0)の高さの順序によって並べており、さらにその順位と1人当り購買力ベース実質 GDP の順位との差を示しているが、(表6)ではそのなかから、アジア14か国についての結論的部分だけを抽出した。

この表からまず気がつくことは、日本、韓国、スリランカ、フィリピン、中国、ベトナム、インドの7か国が GDP 順位と HDI 順位との差がプラス、つまり後者が前者より高く、他の7か国は逆に後者が前者より低いということである。とくに中国、ベトナム、パキスタンの乖離幅が大きくなっている。この結論は前掲(表4)の結果とかなりよく符号している。また近年その経済

的發展が注目されてきたシンガポール、タイ、マレーシアの東南アジア諸国は、いずれも両者の差がマイナスになっている。これは、量的な経済拡大に対して、教育・健康面への対応が相対的に立ち遅れていることを示している。また中国とベトナムの両社会主義国のHDIがかなり高いことは、両国が世界銀行の所得別区分でいずれも低所得国に分類されているにもかかわらず、その生活水準の実態はそれほど低いものではないことを窺わせるものであり、このことは前項の作業の結果とも一致しているといえよう。

(注)

- 1) “*The World Bank Atlas, 1996*”, p.20
- 2) 世界銀行は、GNP計数不詳の国についても他のデータからの推定によって、所得別区分を行っている。
- 3) The World Bank, “*The East Asian Miracle—Economic Growth and Public Policy*”, 1993
- 4) HDIについての詳細は United Nations Development Programme, “*Human Development Report, 1993*” 参照。

[付記] 本稿は1996年度文教大学国際学部共同研究「現代東アジア世界の構図と諸改革の展望——中国・東南アジア諸国をとりまく国際関係と社会変動にかんする研究——」（代表：土井泰彦教授）の一環として執筆したものである。共同研究に参加されたメンバー各位のほか、大谷龍造・山口博一両教授から有益な示唆を頂いたことを感謝する。

表1 所得別グループ細分の結果

(単位・GNPは米ドル)

区分	国数	1人当たりGNP			
		平均	最低	最高	
低所得国	I	17	196	Mozambique 80	Kenya 260
	II	18	352	Nigeriaほか 280	Pakistan 440
	III	17	582	Mauritania 480	Egypt, Arab Rep. 710
下位中所得国	I	18	962	Kiribati 730	Bulgariaほか 1,160
	II	17	1,552	Guatemala 1,190	Namibia 2,030
	III	18	2,479	St. Vincent 2,120	Dominica 2,830
上位中所得国	I	8	3,356	South Africa 3,010	Chile 3,560
	II	7	4,630	Trinidad & Tobago 3,740	Seychelles 6,210
	III	8	7,421	Barbados 6,530	Korea, Rep. 8,220
高所得国	I	10	14,084	Portugal 9,370	United Kingdom 18,410
	II	9	21,123	Finland 18,850	France 23,470
	III	10	29,086	Sweden 23,630	Luxemburg 39,850

(資料) "The World Bank Atlas, 1996" より作成

〔備考〕

この表の各小グループに属する国名は以下の通りである。(アルファベット順)

低所得国 I	Bangladesh	Burundi	Chad	Ethiopia
	Guinea-Bissau	Haiti	Kenya	Madagascar
	Malawi	Mali	Mozambique	Nepal
	Niger	Sao Tome and Principe	Sierra Leone	Uganda
	Viet Nam			
低所得国 II	Albania	Benin	Bhutan	Burkina Faso
	Central African Rep.	Equatorial Guinea	Gambia, The	Ghana
	India	Lao PDR	Mongolia	Nicaragua
	Nigeria	Pakistan	Tajikistan	Togo
	Yemen Rep.	Zambia		
低所得国 III	Armenia	Azerbaijan	Cameroon	China
	Comoros	Congo	Côte d'Ivoire	Egypt, Arab Rep.
	Guinea	Guyana	Honduras	Kyrgyz Rep.
	Lesotho	Mauritania	Senegal	Sri Lanka
	Zimbabwe			
下位中所得国 I	Bolivia	Bulgaria	Cape Verde	Indonesia
	Kazakstan	Kiribati	Macedonia FYR	Maldives
	Moldova	Morocco	Papua New Guinea	Philippines
	Solomon Islands	Suriname	Swaziland	Uzbekistan
	Vanuatu	Western Samoa		
下位中所得国 II	Algeria	Colombia	Dominican Rep.	Ecuador
	El Salvador	Guatemala	Jamaica	Jordon
	Lithuania	Micronesia, Fed. Sts.	Namibia	Paraguay
	Peru	Romania	Tonga	Tunisia
	Ukraine			

下位中所得国 III	Belarus	Belize	Botswana	Costa Rica
	Croatia	Dominica	Estonia	Fiji
	Grenada	Latvia	Panama	Poland
	Russian Fed.	St. Vincent	Slovak Rep.	Thailand
上位中所得国 I	Turkey	Venezuela		
	Brazil	Chile	Czech Rep.	Gabon
上位中所得国 II	Malaysia	Mauritius	St. Lucia	South Africa
	Hungary	Mexico	Oman	St. Kitts and Nevis
上位中所得国 III	Seychelles	Trinidad and Tobago	Uruguay	
	Antigua and Barbuda	Argentina	Bahrain	Barbados
高所得国 I	Greece	Korea, Rep.	Saudi Arabia	Slovenia
	Australia	Bahamas	Brunei	Ireland
	Israel	New Zealand	Portugal	Qatar
	Spain	United Kingdom		
高所得国 II	Belgium	Canada	Finland	France
	Hong Kong	Italy	Kuwait	Netherlands
	Singapore			
高所得国 III	Austria	Denmark	Germany	Iceland
	Japan	Luxemburg	Norway	Sweden
	Switzerland	United States		

表2 社会生活指標の平均値

		(1)エネルギー消費量	(2)印刷・筆記用紙消費量	(3)新聞発行部数	(4)テレビ保有台数	(5)ラジオ保有台数	(6)識字率	(7)中等教育就学率	(8)乳児生存率	(9)病院ベッド数
単位		1人当り・kg	1人当り・kg	千人当り・部	千人当り・台	千人当り・台	%	%	千人当り・人	千人当り・数
低所得国	I	55	341	5	8	120	48	17	894	1.38
	II	212	387	20	23	144	49	35	915	2.72
	III	379	1,188	22	37	182	69	43	941	3.20
下位中所得国	I	856	1,030	52	62	288	82	46	954	5.33
	II	909	3,979	82	123	299	81	55	968	3.66
	III	1,350	4,019	153	227	417	91	65	977	10.62
上位中所得国	I	977	8,530	171	200	423	83	66	967	4.08
	II	1,962	6,307	147	348	526	92	77	979	4.59
	III	3,750	12,515	152	296	578	94	80	985	5.09
高所得国	I	5,169	27,744	187	430	623	92	91	990	5.41
	II	5,155	73,104	348	436	787	94	90	993	7.74
	III	5,515	57,561	425	490	950	97	100	995	8.65

表3 アジア諸国の社会生活指標

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	
低所得国										
I	Viet Nam	105	1,129	8	42	104	94	35	958	3.83
	Bangladesh	65	122	6	6	47	38	19	919	0.31
II	India	243	1,309	31	40	80	52	49	930	0.73
	Lao PDR	38	38	3	7	126	57	25	908	2.47
	Pakistan	255	784	7	18	88	38	21	908	0.57
III	China	647	5,853	37*	38	184	81	55	970	1.63
	Sri Lanka	111	1,827	28	49	201	90	74	984	2.74
下位中所得国										
I	Indonesia	393	2,484	25	62	148	84	43	947	0.67
	Philippines	364	2,742	50	47	143	95	79	960	1.53
III	Thailand	770	5,368	73	113	189	94	37	964	1.63
上位中所得国										
I	Malaysia	1,711	17,512	117	151	430	83	59	988	2.29
III	Korea, Rep.	3,000	22,495	412	215	1,013	97	93	988	3.33
高所得国										
I	Singapore	6,556	74,512	330	381	644	91	84	995	3.64
III	Japan	3,825	74,971	576	618	911	97	96	996	15.63

(備考) 社会生活指標の欄は(表2)と同じなので、番号だけで表示した。また単位の表示は省略した。

(注) *1985年の計数

表4 社会生活指標の偏差値の平均値(総合社会生活指数)

所得グループ別	世界157か国	国名	アジア14か国
低所得国・I	35	Viet Nam	43
		Bangladesh	35
II	38	India	38
		Lao PDR	37
		Pakistan	35
III	41	China	44
		Sri Lanka	46
下位中所得国・I	45	Indonesia	42
		Philippines	45
II	46		
III	53	Thailand	44
上位中所得国・I	49	Malaysia	49
II	52		
III	54	Korea, Rep.	58
高所得国・I	58		
II	63	Singapore	61
III	66	Japan	71

表5 アジア諸国の1人当りGNP——

為替レート・ベースと購買力平価ベースの比較 (1994年)

(単位・米ドル)

	為替レート・ベース (a)	購買力平価ベース (b)	(b)/(a)
低所得国			
Viet Nam	190
Bangladesh	230	1,350	5.9
India	310	1,290	4.2
Lao PDR	320
Pakistan	440	2,210	5.0
China	530	2,510	4.7
Sri Lanka	640	3,150	4.9
下位中所得国			
Indonesia	880	3,690	4.2
Philippines	960	2,800	2.9
Thailand	2,210	6,870	3.1
上位中所得国			
Malaysia	3,520	8,610	2.4
Korea, Rep.	8,220	10,540	1.3
高所得国			
Singapore	23,360	21,430	0.9
Japan	34,630	21,350	0.6

(資料) "The World Bank Atlas, 1996"

表6 アジア諸国の人間開発指数 (HDI) (1992年)

(最高1, 最低0)

国名	HDI	指数の順位 (a) (174か国中)	実質 GDP*の順位 (b) (%)	(b)-(a)
Japan	0.937	3	8	5
Korea, Rep.	0.882	31	38	7
Singapore	0.878	35	16	-19
Thailand	0.827	58	55	-3
Malaysia	0.822	59	45	-14
Sri Lanka	0.704	97	102	5
Philippines	0.677	100	108	8
Indonesia	0.637	104	99	-5
China	0.594	111	123	12
Viet Nam	0.539	120	151	31
Pakistan	0.483	128	100	-28
India	0.439	134	141	7
Lao PDR	0.420	138	126	-12
Bangladesh	0.364	146	141	-5

*購買力ベース・1人当り

(資料) United Nations Development Programme, "Human Development Report, 1995"